

13
1961
18



江戸春



山東京傳作

上

一夜千両

江戸



通油町

遠
1961
2

1961
18



十六



氏無用
 屍の穴乃ひらいお江戸のともぬきら
 千両の大門もくろくろくろくろくろ
 目乃ゆる堅魚も喰をねる喰さらん
 廿日余り子四十両二分のくろくろくろくろ
 可ありにるぬも金はふも金こも
 生んと殺んとのたぐひ泥亀と放
 らぬのどく欲と見得とふ喜の夜乃
 夢げらる世の中よりひらくつふ
 金どとくろくろ 山東京傳題

とらるる



十八 毎二
 分のころうひも
 くらむやうらうせ山
 三テアアアアアアアア
 ありとふあもの
 一やアアと
 二やアアと
 三やアアと
 四やアアと
 五やアアと
 六やアアと
 七やアアと
 八やアアと
 九やアアと
 十やアアと
 十一やアアと
 十二やアアと
 十三やアアと
 十四やアアと
 十五やアアと
 十六やアアと
 十七やアアと
 十八やアアと
 十九やアアと
 二十やアアと



二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



江戸春

山東京傳作

一千夜

江戸

通町



二
た女にとう
はるらりとうろ
かまどりきり
らやうらとまき
まへまぬ
のうこうやく

かろのとういん
ひんちのゆてん
すりこもりいん
ゆきまののひま
むかしののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま

のうこうやく
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま

まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま
まがいののひま



あまのなつ

きんてい
きんてい
きんてい
きんてい
きんてい
きんてい

あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ

あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ



あまのなつ

あまのなつ

あまのなつ

あまのなつ

あまのなつ

あまのなつ

あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ

あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ

あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ

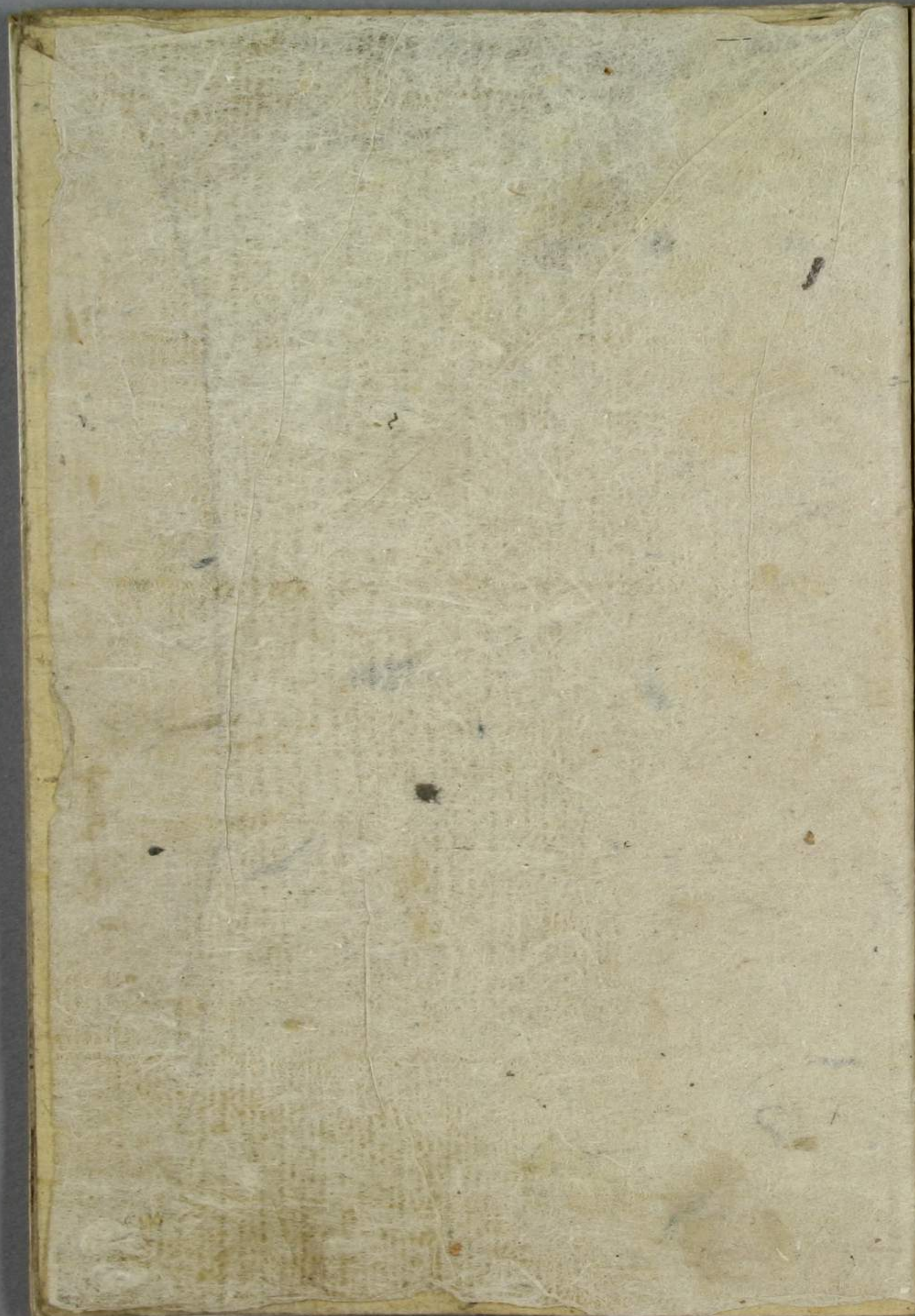
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ
あまのなつ



ゆいしんかみしあをまぬのさ
あいらぬのわとらる
おちういてあきあも
なでうられてま
がらうらてま
とらる
まの

ゆいしんかみしあをまぬのさ
あいらぬのわとらる
おちういてあきあも
なでうられてま
がらうらてま
とらる
まの

ゆいしんかみしあをまぬのさ
あいらぬのわとらる
おちういてあきあも
なでうられてま
がらうらてま
とらる
まの



山東京傳作
 下
 江戸
 一
 子
 夜
 通油町
 江戸



上は、江戸の茶屋の一角を写したものである。左に座す男は、右に跪く女と対峙している。女は何かを手に持ち、男に何かを告げようとしている様子である。背景には障子や窓、そして天井の梁が描かれている。右側の壁には「スナバロロ」という文字が見える。また、左側の壁には「京傳」という文字が記されている。前景には、茶道具が置かれた箱や卓が見える。

この部屋は、江戸の茶屋の一角を写したものである。中央に跪く男は、右側の大きな提灯（andon）を注視している。提灯は細い脚で支えられており、その光が男の顔を照らしている。背景には障子や窓があり、窓の外には松の木が描かれている。右側の壁には「スナバロロ」という文字が見える。また、左側の壁には「京傳」という文字が記されている。前景には、茶道具が置かれた箱や卓が見える。

上は、江戸の茶屋の一角を写したものである。左に座す男は、右に跪く女と対峙している。女は何かを手に持ち、男に何かを告げようとしている様子である。背景には障子や窓、そして天井の梁が描かれている。右側の壁には「スナバロロ」という文字が見える。また、左側の壁には「京傳」という文字が記されている。前景には、茶道具が置かれた箱や卓が見える。



人の心は
 て三百の心と
 つきあはれ
 もありあはれ
 アあはれは人の
 うつろひは
 あつとくし
 めをちとひ
 いんくとし
 人の心は
 て三百の心と
 つきあはれ
 もありあはれ
 アあはれは人の
 うつろひは
 あつとくし
 めをちとひ
 いんくとし
 人の心は

これいかに
 三百の心と
 つきあはれ
 もありあはれ
 アあはれは人の
 うつろひは
 あつとくし
 めをちとひ
 いんくとし
 人の心は



のまの
 してま
 とんよ
 つて
 まき
 あぐ
 いひ

二八十六
 の二十
 役

とどの

一

